

音楽がドラマを作る

組踊音楽の真髄を歌い、語る

め  
か  
る  
し  
ー

# 組踊「銘苺子」を聴く



歌三線独唱 山内昌也  
解説 金城 厚

“歌三線”の世界をじっくりご堪能いただき、  
組踊音楽の仕組みを詳しく解説いたします

## 【演目】

湛水流〈チャンナ節〉

組踊「銘苺子」より〈本調子・東江節〉〈二揚・東江節〉

組踊「銘苺子」より〈遊び子持節〉〈子持節〉

野村流〈仲風節〉〈中作田節〉

## 【解説】

「組踊音楽のドラマ性をめぐって」

～三線演奏と解説～

2023年3月13日(月)

18:00開場 18:30開演

東京音楽大学・池袋キャンパス  
Bスタジオ(B館スタジオ棟)

入場無料・自由席 要事前申込 先着150名  
※コロナ対策のため、事前申込みが必要です

<https://tcm-minken.jp>

## 申し込み・お問い合わせ

ホームページまたはメールにてお申し込みください

✉ [tcmsanshin@gmail.com](mailto:tcmsanshin@gmail.com)

お名前、ご住所、電話番号をお知らせください



<https://sites.google.com/view/tcmsanshin/>

科研費  
KAKENHI

本公演の経費は日本学術振興会科学研究費【基盤研究(C)】の助成を受けています。

## プロフィール

### 歌三線独唱

山内 昌也 (やまうち まさや)  
沖縄県立芸術大学大学院修了。  
沖縄県立芸術大学教授  
国指定重要無形文化財琉球舞踊(総合認定)保持者  
沖縄県指定無形文化財沖縄伝統音楽湛水流保持者

### 解説

金城 厚 (かねしろ あつみ)  
東京藝術大学大学院修了。博士(音楽学)  
東京音楽大学附属民族音楽研究所教授  
沖縄県立芸術大学名誉教授



## プログラムについて

組踊とは、18世紀はじめに琉球の宮廷で生まれた歌舞劇です。国の重要無形文化財に指定されています。組踊「銘苺子」は、琉球に伝わる天女の羽衣伝説にもとづく最初期の組踊作品です。この中で、母親(天女)と子供たちの悲しみを歌う〈東江節〉と〈子持節〉は叙情的な大曲です。通常の演奏会ではまず取り上げられることのない難曲ですが、じっくりと味わってください。

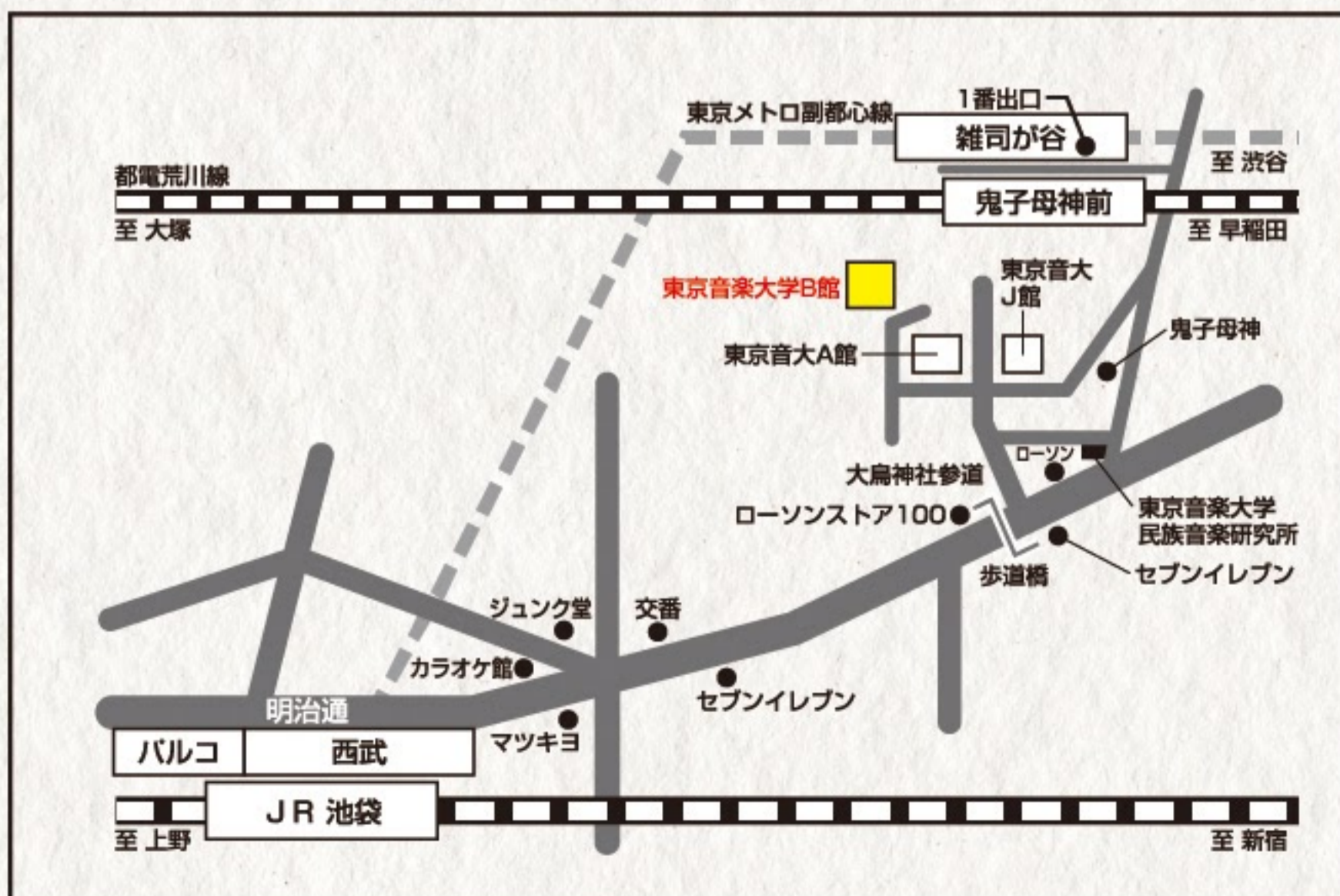
組踊の音楽は、調を変えたり、テンポを変えたり、装飾旋律を増減することで異なる情景に合わせた音楽表現を作りだしています。「解説」では、そうした組踊音楽の仕組みを解説して、聴き所を紹介します。

幕開けに歌われる湛水流〈チャンナ節〉は、最も古風な歌い方を残す貴重な伝承です。沖縄県外で演奏されるのは大変珍しいと思います。

### 「銘苺子」あらすじ

下級の士で農夫の銘苺子は、松の枝に天女の羽衣を見つけ、奪い去ります。羽衣を返すように求める天女に対し、歌掛けの問答で勝った銘苺子は、天女を妻にします。

天女は2人の子をもうけますが、ある日、高倉に隠してある羽衣を見つけたので、天の定めに従って天に帰らなければなりません。我が子を置き去りにしなければならない母の葛藤、母親にうち捨てられたと嘆く幼子たち。二つの悲しみは、音楽的クライマックスを形作ります。やがて、天女の遺児の話が国王の耳に届き、家族3人を宮廷の一員に取り立てるとの沙汰が下され、一同めでたしで終わります。



## アクセス



東京音楽大学  
池袋キャンパス

会場：Bスタジオ (B館スタジオ棟)

「池袋駅」東口より 徒歩約15分  
副都心線「雑司が谷駅」1番出口より 徒歩約5分